

「指導と評価の一体化」のための

学習評価に関する参考資料（中学校 美術）の活用ガイド

本ガイドは国立教育政策研究所の参考資料をもとに、先生方が授業を行うに当たり検討する、指導と評価の計画立案の参考となるよう、神奈川県教育委員会・市町村教育委員会の指導主事の協働で作成したものです。

○掲載項目（事例4）

- 1 題材の目標
- 2 題材の評価規準の作成
- 3 指導と評価の計画
- 4 観点別学習状況評価の進め方
本題材の評価の流れ
- 5 主体的に学習に取り組む態度の評価について

掲載事例以外の題材でも、本ガイドに掲載されたポイントを参考に、日々の学習指導と評価の充実に向けた授業改善に努めましょう！

○活用ガイドのポイント

- ・題材の概要から指導と評価の計画までの流れを解説（1～3）
- ・観点別学習状況評価の進め方を解説（4）
- ・第一次（前半、後半）、第二次、授業外の評価について解説（5）
- ・ワークシートの記述例、生徒の改善例、からの「主体的に学習に取り組む態度」の評価について解説（5）

中学校 美術科 事例を通した評価の具体例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p.85-93

美術科 事例4

キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

題材名

視点を感じて
～写そう 私の〇〇な情景～

内容のまとめ

第2学年「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」
（「A表現」(1)ア(ア), [共通事項](1)アイ)及び「作品や美術文化などの鑑賞」(「B鑑賞」(1)ア(ア)), [共通事項](1)アイ)

<題材の概要>

身近な風景や場面などを深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、見る角度や距離、視点を変えるなどして主題を生み出し、撮影しながら、効果的に表現するための構図などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を深めていく。また、他者の作品から、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして見方や感じ方を深める。本題材では、カメラのオート機能による撮影に限定することから、「技能」の指導及び評価を位置付けない題材とした。

本題材では、カメラの撮影について「技能」については評価しないと設定

何をして、何を学ぶか、身に付けたい資質・能力について設定する



「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料

学習指導要領との関連

「A表現」…発想・構想

＜関連する学習指導要領の内容＞

○「A表現」(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻に表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

「B鑑賞」…造形的な見方・感じ方

○「B鑑賞」(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

ア 効果などの理解

イ 全体のイメージや作風で捉える

○〔共通事項〕(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

題材の概要、学習内容から目標を設定

1 題材の目標

(1)「知識及び技能」に関する題材の目標

・形や色彩，光，空間や遠近感，アングルなどの効果や，被写体の印象や特徴などを基に，全体のイメージで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）

(2)「思考力，判断力，表現力等」に関する題材の目標

〔共通事項〕

・身近な風景や場面などを深く見つめ，感じ取ったことや考えたことなどを基に，見る角度や距離，視点を変えるなどして主題を生み出し，撮影しながら，効果的に表現するための構図などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練る。（「A表現」(1)）

「A表現」(1)

・造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深める。（「B鑑賞」(1)）

「B鑑賞」(1)

(3)「学びに向かう力，人間性等」に関する題材の目標

・美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に身近な風景や場面などを深く見つめて感じ取ったことや考えたことなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

文末は「～しようとする」

「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を参考に作成

2 題材の評価規準の作成

(1) 「視点を感じて～写そう 私の〇〇な情景～」の題材の評価規準 (第2編を参考に作成)

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
<p>知 形や色彩, 光, <u>空間や遠近感, アングルなどの効果や, 被写体の印象や特徴などを基に, 全体のイメージで捉えることを理解している。</u></p>	<p>発 <u>身近な風景や場面などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に, 見る角度や距離, 視点を変えるなどして主題を生み出し, 撮影しながら, 効果的に表現するための構図などを考え, 創造的な構成を工夫し, 心豊かに表現する構想を練っている。</u></p> <p>鑑 <u>造形的なよさや美しさを感じ取り, 作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 美意識を高め, 見方や感じ方を深めている。</u></p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に<u>身近な風景や場面などを深く見つめて感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。</u> 「～しようとしている」</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に<u>造形的なよさや美しさを感じ取り, 作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などを考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</u> 「～しようとしている」</p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を, そのまま使用したり, 具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている (下線部は変更箇所)。

指導と評価の計画(評価方法・留意点を入れる)

3 指導と評価の計画

3 指導と評価の計画(4時間)			
学習のねらい・学習活動	知	思	評価方法・留意点等
<p>1. 発想や構想と撮影(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●写真作品を鑑賞し、主題と写真表現の特色や効果について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・写真作品を基に形や色彩、光、空間や遠近感、アングルや主題について話し合う。 ●身近な風景や場面から表現したい主題をきみ出し、創作的な構図を考え構図を練る。 <ul style="list-style-type: none"> ・主題を基に、構図や構図の取り方、アングル、広がりや遠近のぼかし方を工夫して撮影する。 ●主題をよりよく表現するために、様々な効果を考え、創意工夫して撮影をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・撮影した写真についてお互いに感想を述べ合うなどして、構図を深めながら撮影する。 	知	思	<p>評価方法・留意点等</p> <p>知 形や色彩、光、空間や遠近感、アングルなどの効果や、被写体の印象や特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り、できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】</p> <p>思 形や色彩、光、空間や遠近感、アングルなどの効果や、被写体の印象や特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り、できない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】</p> <p>知 主題を表現するために、構図、形や色彩、光などの工夫を感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えることができるかどうかや、活動に取り組む態度をそれぞれ見取り、できていない生徒に対して主題から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート、活動の様子】</p> <p>思 主体的に撮影に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えようとし、生み出した主題を写真によりよく表現するために改善を図りながら構想しようとする態度を評価する。【撮影の様子、ワークシート】</p>

指導の改善につなげるために用いる評価規準

鑑賞(1時間)	鑑	感	鑑
<p>2. 鑑賞(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●他者の作品から、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えて、見方や感じ方について話し合う。 	鑑	感	鑑

生徒の学習状況を見取り、指導の改善につなげる留意点等を示す。

評定の総括に用いる評価規準

題材のそれぞれの時間の学習活動に該当する「知識・技能」、「思考・判断・表現」の題材の評価規準と対応させて、より具体的に生徒の「主体的に学習に取り組む態度」における実現状況を見取ることが大切。

授業外：題材が終了後の評価について(前頁からの続き)

<p><授業外：題材が終了後></p>	<p>知</p>	<p>鑑</p>	<p>知 完成作品やワークシートなどから形や色彩、光、空間や遠近感、アングルなどの効果についての理解や、被写体の印象や特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【完成作品、ワークシート】</p> <p>鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えて見方や感じ方を深められているかをワークシートから見取り評価する。【ワークシート】</p> <p>発 発想や構想については、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて見取り評価する。【完成作品、ワークシート】</p>
---------------------------	----------	----------	--

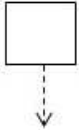
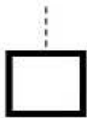

【 】は、評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料

知
【完成作品・ワークシート】

鑑
【ワークシート】

発
【完成作品・ワークシート】

※「指導と評価の計画」における記号等の表記は、以下の通りである。

-  は、授業の中で評価基準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる「題材の評価基準」を示す。
-  は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価基準」（授業内での評価を再確認するための評価も含む）を示す。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになる。
-  は、授業の中で評価基準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげる留意点等について示している。
- ゴシック体は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる評価についての評価方法や留意点等について示している。
- 【 】 は、評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料を示す。

4 観点別学習状況評価の進め方

(1)本題材における指導と評価の流れ

ア「知識・技能」

(ア)「造形的な視点を豊かにするための知識」

この観点は、写真表現のよさや特性に気付かせるための「知識」として、主題と形や色彩、光、空間や遠近感、アングルなどの効果や、被写体の印象や全体のイメージで捉えることについて評価するものである。

知 (第一次, 第二次, 授業外) — 第一次、第二次、授業外など「流れ」を想定しておく。

第一次前半では、写真作品を鑑賞し、形や色彩、光、空間や遠近感、アングルなどの効果について理解し、作品の主題について、それらの効果や、被写体の印象や特徴などを基に、全体のイメージで捉えることなどを大切にする。ここでは形や色彩、光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりするなどの造形的な視点を豊かにすることが重要である。ここでの評価は、授業の中で、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる。そして、第一次後半及び第二次の表現及び鑑賞の学習活動のそれぞれの場面において、造形の要素の働きについて意識を向けて考えたり、大きな視点に立って対象のイメージを捉えたりできるようにし、表現及び鑑賞の学習を深めることができるようにすることに重点を置く。

本題材では、観点別学習状況の評価の総括に用いる評価としては、評価規準である「形や色彩、光、空間や遠近感、アングルなどの効果や、被写体の印象や特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。」ことについて実感的な理解をしていれば、そのことは作品や鑑賞のワークシート等に表れてくると考え、授業外において知識の実現状況の評価することとした。

(イ)「技能に関する資質・能力」

本題材では、カメラのオート機能による撮影に限定することから、技能の指導及び評価を位置付けていない。

カメラのオート機能で撮影を限定。本題材では、技能は評価を位置付けていない。

イ「思考・判断・表現」

ここでの「思考・判断・表現」の評価は、写真表現において、主題を表現するために、形や色彩、光、空間や遠近感、アングルなどの効果をどのように生かすかという中心となる考えを、発想や構想と、鑑賞との双方から指導をし、その実現状況を評価することが重要である。

主題を表現するための効果をどのように生かすかという中心となる考え。
(発想や構想と、鑑賞の双方から指導、実現状況を評価)

(ア)「発想や構想に関する資質・能力」

この観点では、生徒が身近な風景や場面などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に、見る角度や距離、視点を変えるなどして主題を生み出し、撮影しながら、効果的に表現するための構図などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る資質・能力を評価するものである。発想や構想は、撮影を重ねることで主題にあったものに深まることが多い。また、撮影中に全員の作品を評価することは困難である。そのため撮影中は、撮影した作品の変化を中心に見取り指導に生かし、最終的には完成作品から評価し、生徒の発想や構想に関する資質・能力の高まりを読み取ることが大切である。

撮影中は「作品の変化」を見取り、指導に生かす。

完成作品から「発想や構想に関する資質・能力」の高まりを読み取る。

発（第一次，授業外）

第一次の後半では、生徒が身近な風景や場面などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことから主題を生み出すことが重要である。そのため、第1時間目の後半から第2時間目には主題が生み出せていない生徒を把握することに重点を置き、主題を生み出せるように指導をする。ここで主題を生み出すことは、本学習を進めるうえで基盤となるものであり、発想や構想を高めるための重要な部分であるので、一人一人の生徒が主題を生み出すことができるように、丁寧に見取り指導をしていくことが大切である。その際、「知識」と関連付け、造形的な視点を豊かにもちながら、主題を生み出せるよう留意する。ワークシートなどの記述を利用し、生徒が考えを可視化したものを評価資料とすることが考えられる。また、お互いの写真作品を比べ、主題が感じられるかどうか、学び合う活動を取り入れたり、再度撮影する機会を設定したりすることで発想の幅を広げる。第一次後半では、繰り返し撮影を行うため、教師は、その作品の一枚一枚を確認することは困難である。そのため、授業中の評価は記録を残すのではなく、主題や構図が決まらない生徒への助言を中心に行う。記録に残す評価は、第一次後に提出された作品とワークシートの記述を基に授業外に行っている。

(イ)「鑑賞に関する資質・能力」

この観点とは、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めるなどの資質・能力を評価するものである。本事例では、第一次にも鑑賞的な活動が位置付けられているが、ここでのねらいは、発想や構想に関する学習を深めるための活動であるため鑑賞は位置付けていない。第二次の鑑賞の活動は、作品から造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることをねらいとしていることから、鑑賞の評価の対象として位置付けている。

主題を生み出せていない生徒を把握すること

記述を利用（考えを可視化）

助言を中心にする。

作品とワークシートを基に評価
（記録に残す評価）

第一次と第二次の鑑賞の活動を区別

鑑 (第二次, 授業外)

ここでは、生徒作品を相互に鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めているかどうかを見取る。ここでの評価は、生徒のワークシートの記述や発言の内容から行うことになる。

しかし、授業中に鑑賞の指導をしながら全ての生徒を評価することは困難であることから、授業中は、ワークシートの記述や発言の内容等から、鑑賞が深まっていない視点等について、個々の生徒や学級全体に助言をすることに重点を置く。

加えて、生徒の発言の内容に、「十分満足できる」状況(A)に該当するものがある場合には、その評価を記録しておく。

観点別学習状況の評価の総括に用いるための評価は、授業終了後にワークシートの記述を基に評価をすることが基本になる。その際、ワークシートの記述からの評価では「おおむね満足できる」状況(B)であるが、授業中の発言の内容は「十分満足できる」状況(A)と判断される場合に、「十分満足できる」状況(A)と評価することなどが考えられる。

何を見取るか、何を評価するか明確にしておく。

授業中は、助言することに重点を置く。

発言内容はAに該当する場合、記録する。

ワークシートの記述を基に評価することが基本となる。授業中の発言の内容も評価することなどが考えられる。

5 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

この観点の評価対象は、生徒が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう学習に対する主体的な態度。

- 題材の評価規準の文末「～しようとする」
- **実現状況**を見取る
- 活動の様子やワークシートの記述、発言などを基に生徒を見取る
- よりよく表現しようと、**粘り強く**取り組んだり、自己調整を図ったりしている姿
- 「鑑賞に関する資質・能力」は、第一次、第二次などに分けて鑑賞の評価を位置付ける
- 過程や生徒のワークシートの記述などを読みながら主題や表現意図などを基に、**改善のプロセスを丁寧に読み取る**ことが大切

主体的に取り組む態度…試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり、よりよい表現を目指して工夫・改善したりする様子。

(発想や構想の質そのものは、「発想や構想に関する資質・能力」として評価する。)

ウ「主体的に学習に取り組む態度」

この観点は、生徒が「知識」、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしていたり、発揮しようとしていたりすることへ向かう主体的な学習に対する態度を評価するものである。

本事例に該当する第2学年及び第3学年では、「評価の観点及びその趣旨」において「美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。」としており、その趣旨に応じて生徒の実現状況を見取ることが求められる。ここでの「主体的」とは、第1学年の「楽しく」から更に質を高め、自らの目指す夢や目標の実現に向かって課題を克服しながら創意工夫して実現しようと積極的に取り組み、創造的な活動を目指して挑戦していく姿勢である。そのため第2学年の「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、生徒一人一人が表現への願いや創造に対する自分の夢や目標をもてるように励ましたりよさをほめたり示唆したりすることで、創造的な表現や鑑賞に主体的に取り組むことができるように留意することが大切である。

特に写真による表現活動は・・・

生徒の姿をイメージする。

主題を生み出す過程や発想を広げる過程において、見る角度を変えたり、距離や構図を工夫したり、多様な視点で撮影を繰り返したりするような能動的な姿が授業の中で現れることがある。

このような試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり、よりよい表現を目指して構想を工夫、改善したりしていく様子などを捉えながら指導と評価を行うことが大切である。

何を評価するかを明確にしておく。

以下に示す写真やワークシートの記述例に見られる改善は、「発想や構想に関する資質・能力」の改善とも読み取れるが、「主体的に学習に取り組む態度」は、育成する資質・能力を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度である。

そのため、同じワークシートの写真や記述であっても、繰り返し撮影をして発想や構想を改善しようとしている痕跡は「主体的に学習に取り組む態度」として評価し、改善された発想や構想の質そのものは、「発想や構想に関する資質・能力」として評価することになる。

態表（第一次：前半）

何を評価するかを明確にしておく。

第一次の前半の活動

写真表現の特性や効果，主題と表現の工夫について主体的に理解しようとする意欲や態度を見取る。

活動の様子やワークシートの記述などを基に生徒を見取り，写真作品に表現されている主題や造形的な視点について理解しようとする意欲が見られない生徒を把握することに重点を置く。

生徒を把握することに重点を置く

関心や意欲が高まらない生徒に対しては，主題の内容から作品を再度見つめさせ，形や色彩，光などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴や視点やアングルの工夫などを捉えたり，全体のイメージで捉えたりすることなど，関心や意欲が高まるように机間指導等をする。

関心や意欲を高める指導



生徒が鑑賞した作品
作品名：「別れ」

<生徒のワークシートの記述例>

「別れ」という作品を鑑賞した。画面全体が、灰色や茶色などで寂しそうに見え、画面全体の大部分が地面で、人物は下半身だけを切り取った構図になっている。また、アングルを低くし、鳩の目線で撮影しているようだ。鳩と人だけでなく、地面のタイルを画面に入れることで遠近感が一層強調され、一点透視図法のように、消失点には、足が写されている。旅を終えこれから帰路につく様子を、人と鳩の歩く方向を逆向きになった瞬間で捉え別れを表しているところに作者の意図を感じた。私も、主題が伝わるように工夫して撮影したい。

生徒のワークシートの記述例①

人物は下半身のみ

大部分が地面

全体の色が灰色で寂しそう

人と鳩の向きが逆。別れを表している。

作者の意図を感じる。



アングルが低い。鳩の目線である。

地面のタイルを入れる。遠近感が強調。

一点透視図法

生徒が鑑賞した作品
作品名：「別れ」

＜生徒のワークシートの記述例＞

態表（第一次：前半）

（前ページからの続き）
ワークシートの記述から、作者が造形的な要素を捉えて主題に迫って撮影していることを理解しようとしていることや、自分自身の撮影に向けて意欲が高まったことなどが分かる。



生徒が鑑賞した作品
作品名：「別れ」

「別れ」という作品を鑑賞した。画面全体が、灰色や茶色などで寂しそうに見え、画面全体の大部分が地面で、人物は下半身だけを切り取った構図になっている。また、アングルを低くし、鳩の目線で撮影しているようだ。鳩と人だけでなく、地面のタイルを画面に入れることで遠近感が一層強調され、一点透視図法のように、消失点には、足が写されている。旅を終えこれから帰路につく様子を、人と鳩の歩く方向を逆向きになった瞬間で捉え別れを表しているところに作者の意図を感じた。私も、主題が伝わるように工夫して撮影したい。

態表（第一次：後半）

第一次の後半では、よりよい作品を目指して創意工夫をして撮影する意欲や態度を評価する。

撮影は、様々な場所で行っているため、教師は巡回しながら各自の様子を観察することになる。

基本的には、撮影に関心や意欲がもてない生徒を見取り、意欲が高まるように指導をする。生徒が、造形的な視点を意識しながら主題をよりよく表すために何度も繰り返し撮影しモニターで確認したり、撮影の回数を重ねるたびに工夫点を増やし、粘り強く撮影したりする姿を大切にする。

第一次を通して、よりよい発想や構想を目指して改善を繰り返したり、継続して意欲的に取り組んだりする姿などを総括に用いる評価として記録をしておく。

何を評価するかを明確にしておく。

関心や意欲が持てない生徒を見取り、意欲が高まるように指導をする。

総括に用いる評価として記録をしておく。

生徒の撮影の改善例

生徒が生み出した主題を創意工夫してよりよく表現しようと、粘り強く取り組んだり、自己調整を図ったりしている姿が見取れる。

①から④の過程を読み取る

本題材のような感じ取ったことや考えたことなどを基に表現する学習においては、
撮影の改善の**過程**や生徒のワークシートの記述などを読みながら主題や表現意図などを基に、**改善のプロセス**を丁寧に読み取ることが大切である。

よりよく表現しようとしている
(改善の過程やワークシートの記述などから読み取る)

<生徒の撮影の改善例>



作品名:「僕を待つ」



生徒のワークシートの記述例②

<生徒の撮影の改善例>

私を待っている自転車を表現しようと考えた。

①は普通のスナップ写真



②は構図を左右対称にしてみた。自転車が待っている感じは出ていない。



③自転車を大きくしてみた。



④夕日が当たって放課後、私を待っている感じになるように撮影場所を工夫した。



作品名:「僕を待つ」

よりよく表現しようとしている(改善の過程やワークシートの記述などから読み取る)

工夫点を増やし、粘り強く撮影したりする姿

<生徒のワークシートの記述例>

放課後の下校するときに私を待っている自転車を表現しようと考えた。1枚目は、画面の中央に自分の自転車を置いて撮影したが、普通のスナップ写真のようになってしまったので、2枚目は、自転車置き場の柱が左右対称になるような構図を考えて、左側に自分の自転車を置いて撮影した。写真としては面白い感じになったけれど、自転車が私を待っているような感じが出ていないので、3枚目は、自分の自転車を画面に大きく入るように撮影した。もう少し放課後に待つ感じを出そうと思い、4枚目は、撮影するのを授業の最後の方まで待って、夕日が自転車に当たって放課後に私を待っているような雰囲気になるように撮影場所を工夫した。

「よりよく表現しようと、粘り強く取り組んだり、自己調整を図ったりしている姿」が見取れる。

態鑑（第二次）

第二次では、他者の写真を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えようとしたりするなどの意欲や態度を評価する。作品のよさを捉えようと発言をする姿が繰り返し見られたり、ワークシートの記述などから、特に意欲的に作品のよさなどを捉えようとする顕著な状況が見られたりする場合には、「十分満足できる」状況（A）と評価する。（中略）鑑賞では、他者の作品のよさや美しさ、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などを感じ取り、共有し合うことで、自分の視野を広げようとする態度の形成を図ることも大切である。

何を評価するかを明確にしておく。

意欲や態度を評価する。

何を評価するか。

ワークシートの記述などから評価

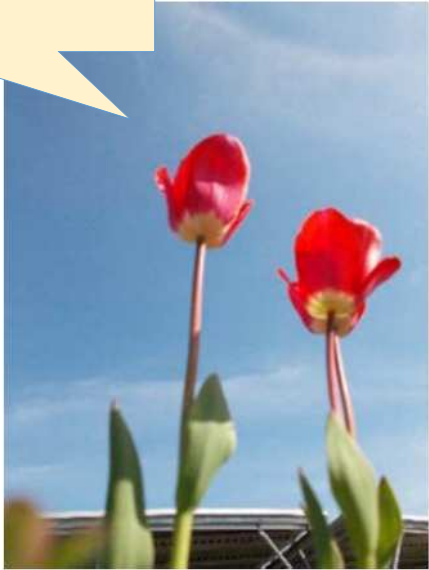
鑑賞を通して、自分の視野を広げようとする態度の形成を図る。

生徒のワークシートの記述例③

2つの作品を比べると・・・

アングル(Aさんは下から)B
さんは(手前から)

強い日差し(透
けている花びら
から)



作品名:「空に」

発想の参考になった

<生徒が撮影した作品>

Aさん

Bさん



作品名:「あたたかな仲間」

違った捉え方が面白い

アングル(Bさんは手前から)

あたたかい日
差し(葉に当
たった光)

<生徒のワークシートの記述例>

花を撮った二つの作品を比べてみた。 Aさんは、日差しを浴びたチューリップが上に向かって伸びていく様子を下から見上げたアングルで、花びらの重なりで透けて見える様子などから強い日差しを表現しようとしているのに対し、Bさんは、タンポポの群生を手前から奥にリズムカルに写し、葉に当たった光が輝いていてあたたかい日差しを表現しようとしている。花という素材は同じでも違った捉え方が面白く、これからの発想の参考になった。

Aさん <生徒が撮影した作品>

Bさん



作品名：「空に」



作品名：「あたたかな仲間」

作品のよさや表現の工夫を読み取ろうとする生徒の姿や、今後の鑑賞の学習を生かした表現の学習活動への意欲などが読み取れる。